

の条いかし

参議院
神奈川

あさか由香

ロシアの侵略戦争は即時中止を!

「国連憲章を守れ」の声をあげよう

憲法9条 平和の先駆者、世界に発信を

日本国憲法9条はかつての戦争の痛苦の経験から日本が世界に誓った約束。ウクライナ危機に乗じて9条を否定する議論がありますが、ロシアなど大国の「力の論理」に立つては平和はつくれません。9条の理念を世界に広げ、連帯するときです。

国際社会

平和つくる力は私たちにある

ロシアは国連憲章にもとづく世界の平和秩序を脅かしていますが、国際世論は無力ではありません。被爆者の方々の「核兵器をなくせ」との声は世界の国々の連帯を生み出し、2021年、核兵器禁止条約をつくりました。国際世論を強めることこそが唯一の大道です。

日本共産党の立場は

あらゆる霸権主義を許さず 東アジアに平和の枠組みを!

- ▶ 旧ソ連・ロシア、中国、アメリカなどの霸権主義を徹底的に批判
- ▶ 領土問題は「日本の歴史的領土である全千島列島と歯舞・色丹の返還」という立場

- ▶ ソ連崩壊時は「大国主義・霸権主義の歴史的巨悪の党の終焉を歓迎する」と表明
- ▶ 憲法9条をいかした平和外交で、「東アジアサミット」を平和の枠組みとして活用、強化

ロシアによるウクライナへの攻撃
国際法違反の暴挙に、胸がつぶれる思いです。
ロシアは侵略を止めよ、国連憲章守れ！の声を
私もあげ続けたいと思います。
国連はロシアの無条件撤退を史上最高数で決議し
世界中の市民が
侵略戦争は許せないと立ち上がっています。
「力による支配」に抗う世界の流れこそ
私たちがよって立つ未来への道だと思います。
いまこそ憲法9条を守りいかす政治に
変えていきましょう。
みなさんの平和への思いを
ぜひ私に託してください。

浅賀ゆか 1980年横浜市鶴見区生まれ(旧姓・金谷)。
森村学園高等部、筑波大学国際総合学類卒。民間企業にシステムエンジニアとして勤務後、国際輸送業に関わる。世界から貧困と紛争をなくしたいという思いで数々のボランティアに携わり、日本共産入党。夫と10歳・6歳・0歳の5人家族。

▼Webサイト



平和をつなご

廃絶こそが最大の抑止力

「核兵器の先制使用」(プーチン大統領)。米国の核兵器を運用する「核共有」(日本維新の会や自民党)。いずれの立場も唯一の戦争被爆国である日本として許せません。核兵器がもたらすのは、大量無差別の殺人と破壊。核戦争の危機を取り除くには、核廃絶しかありません。日本は核兵器禁止条約への参加をリードすべきです。

ウクライナ支援募金へご協力を

お預かりした募金は、全額を国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、
国連児童基金(ユニセフ)に届け、ウクライナの人々への支援に充てています。
郵便振替 口座番号 00170-7-98422
加入者名 日本共産党中央委員会
*通信欄に「ウクライナ募金」と明記ください。手数料はご負担願います。



8時間働けばふつうに暮らせる社会へ

新型コロナで浮き彫りになった格差と貧困、社会の不公正…。

大企業の利益優先、国民に自己責任を押しつける自民・公明政治の責任です。

世代を超えて全ての人が安心し、生きていることを楽しみ、尊重される公正な仕組みを確立すること。

それが、あさか由香が掲げる「8時間働けばふつうに暮らせる社会」です。



CHANGE PLAN あさか由香の提案です

格差を正す

内需をあたため強い経済へ

- 最低賃金1500円に。
中小企業の賃上げ支援予算を大幅アップ
- 非正規から正社員へ。
- 消費税5%減税へ。
インボイス制度は中止



学費を下げる

お金の心配なく学べる社会へ

- 学費半額に。
大学・短大・専門学校の学費をまずは半額、そして無償に
- 給付型奨学金、70万人に。
全ての奨学金を無利子に
- 小中高校で20人程度学級へ。
- 義務教育の完全無償化。

気候危機を開拓

脱炭素・省エネ・再エネで持続可能な成長へ

- CO₂50~60%削減。
省エネ・再エネで2030年度までに
- ただちに原発はゼロに。
再生可能エネルギーに大転換を
- 新増設は中止。
横須賀への石炭火力発電所の建設は中止



参院選 投票方法

制度解説

1回目



選挙区は
「候補者名」

2回目



比例代表は
「政党名」
個人名でも投票できます。

日本共産党って どんな政党?

あなたの「?」にこたえます



あさか由香さんと
がんばります!

党政策委員長・
参議院議員(比例代表)

田村 智子



世界から貧困と
紛争をなくしたい



2010年NPTニューヨーク行動で(左端)

高校生でカンボジアに学校をつくるボランティアに参加。大学時代は留学先のニューヨーク州立大学で原爆展を開催。核不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた国際平和会議にも参加し核廃絶を発信しました。



昨年8月に第3子を出産。「それぞれの生活を大切にしながら政治参加できる社会こそが、多様性を認め、一人ひとりのかけがえのない人生が存分に輝く社会につながる」と、産休、育休をとりながらの政治活動を決意。「夏の参院選『風穴』あける、女性議員比率、低迷の日本」(朝日新聞3/16)など、新たな挑戦が注目されています。

